

西東京の女性グループ、避難者に聞き取り



「上」左から角田さん、藤さん、斎藤さん、渡辺さん



被災者の体験を冊子にまとめたのは、西東京市のNPO法人「生活企画ジェフリー」だ。1994年に女性を中心になって立ちあげたグループで、2004年にNPO法人を取得。男女平等に関わる様々な事業に取り組んできた。ジェフリーは震災以降、被災者の体験を冊子にまとめた女性グループがある。

被災体験、書き残したい

2011年3月11日の東日本震災と津波、その後の福島第一原発の事故。家やふるさとを追われるように後にした人々がいることを忘れてはならないと、避難体験の聞き書きを冊子にまとめた女性グループがある。

NPO法人「ジェフリー」冊子「3.11の現実」発行

冊子では、震災前の暮らしのこと、震災時の暮らしか、西東京市に移ったことからの暮らし、伝えたいことといったら本の柱を中心に話してもらった。

福島県双葉町から避難してきたある男性は「地震直後、防災無線で放射能漏れの危険があると言われ、着の身着のまま車に乗り込みました。その後、原発が爆発した音を聞き、危険を感じて遠くへ遠くへ避難していきまし」と当時を振り返る。そして「原

美恵さんは、震災3カ月後の2011年6月に被災地の東松島を訪れ、メンバーの斎藤三枝子さんも同年8月に陸前高田、大船渡、釜石などを訪問した。その後学習会や市と協働して交流会などを開催してきた。

「2年前にあの日を風化させてはならないという思いで作りました」と渡辺さんがあって避難してきた人々は、これからの暮らしのあり方を模索している。継続的な応援をしていきたいという。(介護福祉ライター・甘利てる代)八王子市

12人にインタビュー  
聞き書きは西東京市に避難してきた12人の男女に対して行った。

ある女性は車の中で一夜を明かし、放射能が届かない所まで逃げようと移動する。避難所でヨード剤を配られて「やっぱり何か、大変なことが起きている」と実感したという。どの体験談からも緊迫感が伝わってくる。

「交流会などで話を聞こうちに、ただ共感するだけではなく、書き残しておくべき貴重な資料だ」と思いに至りましたと渡辺さん。メンバーは交流のあった避難体験者を知ってほしい、「自分たちも発信したい」という返事

冊子の申し込みは「ジェフリー」へ ☎042-467-2096 1冊1000円と送料80円。5冊以上は送料無料(売り上げの一部は復興に関わる女性支援団体に寄付される)

「2013年1月に聞き書き「3・11の現実」を、私たちはこの町にきた(以下、「3・11の現実」、1000円)を発行した。冊子は、聞き書き編、寄稿編、災害と女性編、資料編の4章から成っている。

「交流会などで話を聞こうちに、ただ共感するだけではなく、書き残しておくべき貴重な資料だ」と思いに至りましたと渡辺さん。メンバーは交流のあった避難体験者を知ってほしい、「自分たちも発信したい」という返事

「2年前にあの日を風化させてはならないという思いで作りました」と渡辺さんがあって避難してきた人々は、これからの暮らしのあり方を模索している。継続的な応援をしていきたいという。

冊子の申し込みは「ジェフリー」へ ☎042-467-2096 1冊1000円と送料80円。5冊以上は送料無料(売り上げの一部は復興に関わる女性支援団体に寄付される)

語り継ぐことに意味  
ジェフリーの理事長、渡辺藤さん、清水君枝さんが担当しました。